

生活福祉学科 企画

「介護フェスタ」

～見て・触れて・気づく 介護福祉の魅力発信・啓発・体験型イベント～

報告者：中 村 直 樹¹⁾

1. 事業の概要

本事業は、本学が平成30年度青森県 福祉・介護人材確保対策事業補助金（以下、補助金とする）¹⁾を申請・取得し、平成30年11月4日から11月18日にかけて全3会場5日間にわたり開催したものである。厚生労働省が制定している毎年11月11日（「いい日、いい日」）の「介護の日」に併せて、地域住民や介護福祉に興味をもつ中学生・高校生等を対象に、介護のことを知り、理解を深め、一緒に考えることを目的に、平成29年度より企画・実施している。以下、今年度事業の詳細について報告する。

2. 事業実施の背景

働き方改革が進められる昨今、介護分野においても働き方の改善・工夫が叫ばれている。なかでも、人材の確保とつなぎとめに成果を上げる方策として、例えば、短時間勤務制の導入や子育て中の母親が働きやすい時間帯及び環境面の整備、IT（情報技術）による仕事の効率化などが深化しつつある。かつてわが国において3K（きつい、汚い、給料が安い、あるいは結婚できない）などといった、介護分野に対するネガティブなイメージ・捉えられ方を一新し、仕事と家庭の両立をしやすくして働く場所としての魅力を高めようという試みが進められている。

公益財団法人介護労働安定センターが実施した2014年度介護労働実態調査²⁾によると、職員の早期離職防止や定着促進策として65.5%の介護関連施設・事業所が「労働時間の希望を聞いている」とある。また、公益財団法人介護労働安定センター青森支部が2017年9月にまとめた青森県内における介護労働実態調査³⁾によると、早期離職防止や定着促進のための方策として挙げられている「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる」の項目について、全国平均水準が66.4%であるのに対し、青森県の施設・事業所は73.6%とやや高い値となっている。しかし一方で、前述調査と同時に実施された介護労働者の就業実態と就業意識についての調査項目によると、働く上での悩み、不安、不満等についての項目中、本件における回答の第1位が「人手が足りない（50.1%）」、次いで「仕事内容のわりに賃金が低い（47.8%）」などとなっている。

以上のことから読み取れるように、青森県においては、介護施設・事業者の人材確保に対する努力が全国水準よりもやや高い位置にあり評価に値するが、他方では給与額の低さが生活の安定を脅かしていると考えられる。そして、こうした点が主な理由となって離職率の引

平成30年度 青森県福祉・介護人材確保対策事業
弘前医療福祉大学短期大学部 企画

参加無料

見て×触れて×気づく

介護♥フェスタ

介護福祉の魅力発信
啓発・体験型イベント

介護福祉の「いま」がわかります！

11月11日は「介護の日」です！
介護のことを知って、もっと理解を深めてみませんか？
介護の仕事に興味がある生徒さんや、実際に在宅で介護をされている方ぜひお越しください！
介護のこと、一緒に考えてみませんか？

MC×若手介護福祉士
トークセッション 10:30～12:00
11/4(土)・11(日)・17(土)
実際に介護福祉士として活躍する人たちの声を聞いて、介護のことをもっと知ろう！

介護福祉がよくわかる
パネル展示ブース
パネルを見ながら質疑・アンケートに記入してプレゼントをGETしよう！

福祉×クイズ
13:30 14:30
クイズを通して、介護のことをもっと学ぼう！

介護福祉機器・用品
体験・相談コーナー
最新の福祉機器・用品を実際に手に取り体験することができます！

五所川原市 11/4 ELM (エルムの街) 本館2階エルムホール [10:00～16:00]

弘前市 11/10 イオンタウン弘前館のロライオン前 特設会場 [10:00～16:00]

青森市 11/17・18 マエダ ガーラモール 1階 特設会場 [10:00～16:00]

お問い合わせ先
弘前医療福祉大学短期大学部 ☎0172(27)1001 <https://www.hirosakiuhw.jp/> 弘前医療福祉大学 弘前

1) 弘前医療福祉大学短期大学部 生活福祉学科 (〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1)

き上げに結びついている点を無視することはできないと筆者は捉える。介護分野における働き方改革のエッセンスには、さらなる賃金向上についての議論も含めて検討していく必要があると考えられる。

さらに、筆者が平成29年度本学紀要に記したように、依然として県内全域に介護人材が不足しており、かつ、本学を含める各介護福祉士養成施設への進学者数も横ばいまたは減少傾向にある。やりがいと誇りの持てる、魅力ある仕事であることをより一層PRし、介護分野への進学及び就業促進や人材確保・定着を図ることを主眼に、今後取り組を進める必要があると考える。

以上に挙げたことを踏まえ、本年度も補助金を取得し、以下に挙げる県内3か所（東青地区、中南地区、西北五地区）の商業施設を会場に、福祉・介護の仕事の大切さと魅力を伝えるための「介護フェスタ」を実施し、今後進学を目指す中学生・高校生をはじめ、広く地域住民に呼びかけを行うイベントを開催したので、このことについて報告する。

3. 開催日時・場所

- 第1回目（五所川原市会場）
 平成30年11月4日（日）
 10：00～16：00
 ELM（エルムの街）本館2F エルムホール
- 第2回目（弘前市会場）
 平成30年11月10日（土）・11日（日）
 10：00～16：00
 イオンタウン弘前樋の口 ライトオン前特設会場
- 第3回目（青森市会場）
 平成30年11月17日（土）・18日（日）
 10：00～16：00
 マエダガーラモール 1F 特設会場

4. 開催内容

1) MC×若手介護福祉士トークセッション

各会場とも、午前10時30分から正午にかけて、メインステージを会場にMC（進行役）と若手介護福祉士によるトークセッション（以下、トークセッションとする）を開催した。MC役は筆者が担当した。また、若手介護福祉士として各会場2～3名ずつの本学卒業生をゲストとして迎えた。

トークセッションの中では、MCの進行にあわせながら、ゲストの自己紹介、仕事内容の紹介などの後、介護

福祉士として働くことの楽しさや魅力、仕事する上で抱える課題や克服策などについて、「つらいこと、大変なこと、また、経験上困ったこと」「楽しいこと、介護の仕事をしている喜び、経験上のノウハウ・キャリアアップ」といったように、一つずつ題を出しながら進行した。セッションの最後にはまとめとして、事前に準備したフリップに「私の決意」を書いてもらい、来場者に向けて自己の抱負を述べてもらった。



五所川原市会場



弘前市会場



青森市会場

2) 介護福祉がよくわかるパネル展示

各会場とも、介護福祉に関する各種情報を盛り込んだ大型パネルを展示（以下、パネル展示とする）した。ステージ前の通路に、介護福祉士の内容や資格の概要、資格取得に向けたルート、就業している施設・事業所等の概要などについて、説明や図表、イラスト等によりわかりやすく掲載した大型パネル16枚に加え、本学の取組について紹介した4枚をあわせた計20枚のパネルを設

置き、来場者に見てもらった。またこれにあわせて、簡単なクイズと来場者アンケートを記載した用紙と鉛筆を配布して、来場者に楽しみながら回答してもらえるよう工夫した。回答者には介護食の調理に用いられているとろみ剤やレトルト食品などを無料で配布した。



3) 福祉〇×クイズ大会

午後1時30分と2時30分からのそれぞれ約30分間、介護福祉に焦点を当てた〇×形式で来場者に回答してもらうクイズ大会を開催した。司会者は筆者と戸来准教授が、また、寸劇演者として本学教職員1~2名（工藤准教授、福土講師、佐藤事務員がローテーションで出演）がそれぞれ担当した。

パワーポイントとスマートフォンのアプリケーションを活用しながら、介護保険制度に関連する問題や車いすの操作方法、認知症ケアなどに関する全10問の問題をスクリーンに映し出し、司会者の合図で来場者に挙手し



ていただく方式を採った。正答の発表の後、問題の解説を寸劇形式で演出した。参加者には記念品として補助金を活用して作製した温湿度計を配布した。

4) 介護福祉機器・用品体験・相談コーナー

会場内に、最新の福祉機器・用品を手にとって体験することができるコーナーを設け、3モーター式の介護用ベッドや各特性に応じて対応できる数種類の車いす、床走行式の介護リフト、徘徊センサー、ポータブルトイレなどを展示した。また、会場には福祉用具を扱う業者が常駐し、来場者からの介助方法や介護技術についての質問に対してミニ講座を実施するなどして説明・対応してもらった。



5) イベントリーフレット配布

今年度からの新たな試みとして、「介護フェスタ」イベントに際してのリーフレットを作成し、来場者に無料で配布した。紙面の内容としては、本イベント開催に係る補助金に関連した「青森県福祉・介護人材確保定着グランドデザイン」についての紹介や介護福祉士国家試験受験までのルート図、介護人材のキャリアパス、前回実施報告などの各種情報のほか、介護施設において介護職に従事している本学卒業生2名についてインタビュー取材をしたものを記事（読みもの）にして手に取りやすい紙面となるよう創意工夫した。



6) その他

会場内外（各商業施設の出入り口前など）において、本学教職員と、当日、ボランティア・スタッフとして集まった学生広報グループ（GKG）の学生メンバーらが、イベント用に製作したポケットティッシュを買い物客に配布し、啓発を行った。

5. 効果

1) 来場者アンケートの実施

来場者にアンケートを実施し、3会場合計637名から回答を得た（平成29年度比165%）。アンケート内容は昨年と同様に、性別、年代、住所地等の基本属性に加えて、介護フェスタに参加する前と後とで、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化したかについて、「楽しさ」・「魅力」・「理解度」・「興味」の4項目について測定した。また、意見・感想について自由記述欄を設けた。以下、アンケート結果と分析について記す。なお、アンケートへの回答は来場者の任意である。

2) 各設問に対する回答結果

問1 回答者の性別

- 男性205名、女性428名、不明（無回答）4名（計637名）

問2 回答者の年代

- 上位順に、10歳未満117名、30歳代116名、40歳代86名、20歳代79名、10歳代65名、などであった。また、どの年代も共通して女性の来場者が男性を上回った。

問3 回答者の住所地

- 上位順に、弘前市223名、青森市212名、五所川原市49名などであった。

問4 参加前後の介護福祉に対するイメージ変化

- 「楽しさ」・「魅力」・「理解度」・「興味」の4項目ともに、「楽しくなった」等の第2位に値する項目が一番多く、次いで「とても楽しくなった」等の第1位に値する項目が多い結果となった。

問5 意見・感想

- 全年代を通して計86名の記述があった。
- 一般的にトークセッションや福祉〇×クイズ大会、パネル展示などについて、テーマや内容、出演者及びスタッフなどに興味・関心・好感を持ったとの記述が多く見られた。また、介護福祉士の仕事ぶりや必要性等が理解できた旨の記述も見られた。
- 介護福祉に関するキャリアアップや、高齢分野だけではなく障がい分野についての情報を求める記述もあった。

介護フェスタ 来場者アンケート 結果（3会場合計）

①回答者の性別

男	女	無回答	計	昨年比
205	428	4	637	165%

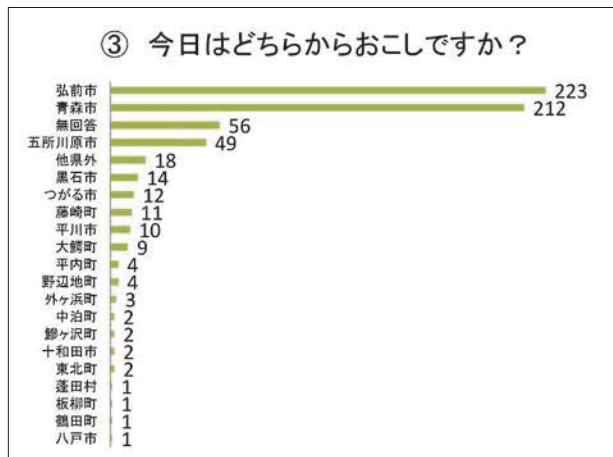
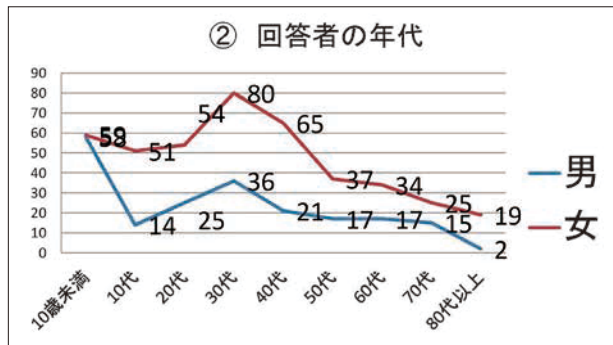
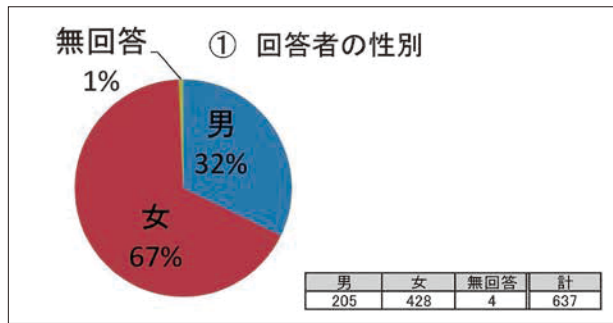
②回答者の年代

性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	計
男	58	14	25	36	21	17	17	15	2	0	205
女	59	51	54	80	65	37	34	25	19	4	428
無回答	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	4
計											637

③今日はどちらからおこしですか？

性別	弘前市	青森市	五所川原市	黒石市	つがる市	藤崎町	平川市	大鰐町	野辺地町	平内町	外ヶ浜町
男	65	69	14	6	3	3	1	6	2	2	0
女	154	143	35	8	9	8	9	3	2	2	3
無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	223	212	49	14	12	11	10	9	4	4	3

性別	東北町	十和田市	鱒ヶ沢町	中泊町	八戸市	鶴田町	板柳町	蓬田村	他県外	無回答	計
男	0	2	1	1	0	0	0	1	8	21	205
女	2	0	1	1	1	1	1	0	10	35	428
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
計	2	2	2	2	1	1	1	1	18	56	637



④ 介護フェスタに参加する前と後とは、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化しましたか？

・楽しさ

性別	とても楽しかった	楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった	無回答	計
男	61	79	5	1	59	205
女	121	199	14	5	89	428
無回答	-	2	-	-	2	4
計	182	280	19	6	150	637

・魅力

性別	とても感じられた	感じられた	あまり感じられなかった	感じられなかった	無回答	計
男	57	84	5	-	59	205
女	136	190	13	-	89	428
無回答	-	2	-	-	2	4
計	193	276	18	0	150	637

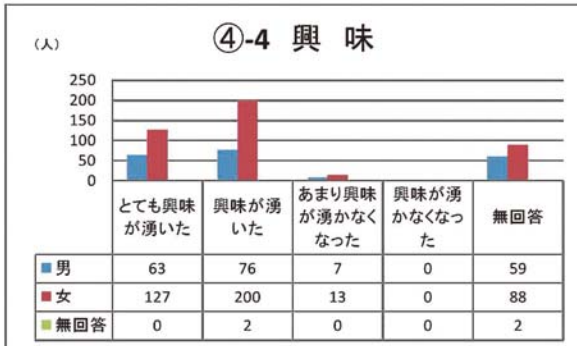
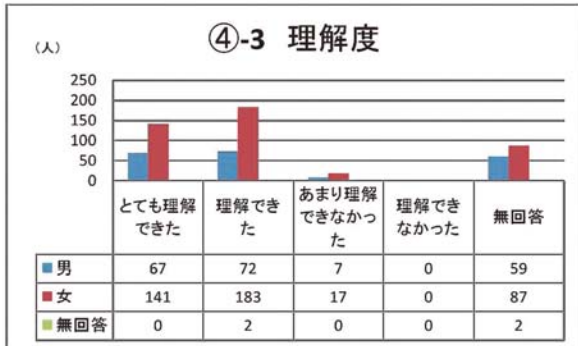
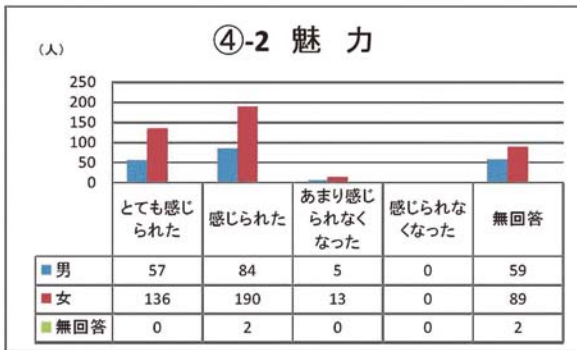
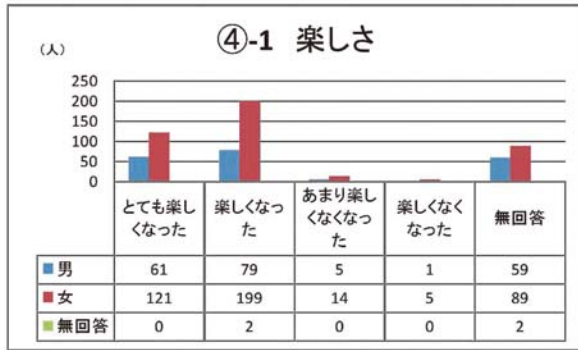
・理解度

性別	とても理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	無回答	計
男	67	72	7	-	59	205
女	141	183	17	-	87	428
無回答	-	2	-	-	2	4
計	208	257	24	0	148	637

・興味

性別	とても興味が湧いた	興味が湧いた	あまり興味が湧かなかった	興味が湧かなかった	無回答	計
男	63	76	7	-	59	205
女	127	200	13	-	88	428
無回答	-	2	-	-	2	4
計	190	278	20	0	149	637

④介護フェスタに参加する前と後とは、介護福祉に対するイメージがどのくらい変化しましたか？



⑤その他、ご意見をお寄せください

年代	性別	内容 (原文)
10歳未満	男性	祖母が介護が必要になったため参考までに見に来た
	女性	ありません
	女性	がんばってください！
10代	女性	〇×クイズとてもためになりました。
	女性	ベッドやトイレとかのそういう実践みたいのが見てみたい
	女性	福祉勉強をしている立場からして勉強になった。
	女性	楽しかったです。
	女性	働く人の話を聞いてとてもためになった。
	女性	介護というのはあまり良いイメージがないという方もいますが、こういうショッピングモールで明るく楽しそうにイベントを行うことで介護の魅力を知ってもらうことはいいきっかけになると思います。おつかれさます。
	女性	介護福祉士になるには、いろいろなルートがあることがわかった。
	女性	〇×クイズが楽しかった。
	女性	介護福祉士になりたいと思いました。
	女性	勉強になった。感謝。
20代	女性	いろいろ知れた。
	女性	よく理解できました。
	女性	自分も高校を卒業して介護福祉士の資格もっています。このようなイベント、とてもいいと思います！
	女性	いいイベントだと思います！(^_^)
	男性	色々なグッズを体験できて勉強になりました。
	男性	色々なグッズがあり、楽に介護ができる
	男性	とても理解でき、楽しかった。
	男性	若手介護士の方が、楽しそうに仕事をしている事が伝わってきました。給料と休みをあげてほしいです。
	男性	特にありません
	男性	介護は3Kなイメージがやっぱり強いな～
30代	男性	就職決まっていない人いたらぜひうちに…
	女性	介護に興味を持つ人が増えて欲しいと思う。
	女性	学校でも役立つそうだと思います。
	女性	クイズがとても勉強になりました。知らない事ばかりです。
	女性	自分が同じような仕事していて、改めて楽しく大変だと思いました。自分自身がボランティアしてみたいです。
	女性	もし来年も介護フェスタがあったらよろしくです。
	女性	色々な介護食があるのですね
	男性	社会人としての基本姿勢も身につけてきて欲しい
	男性	若手の介護士の生の話を聞いて、勉強になりました。
	男性	勉強になりました。
男性	若手の介護福祉士さんのトークショーが楽しかったです。勉強になりました。	
男性	健康を維持できるよ様な生活をすごそうと思う	
女性	今年も楽しかったです	
女性	勉強になりました。	
女性	弘前医療福祉短大についての企画だとわかり、来て良かったです。	
女性	スタッフの学生さんが笑顔でとても良かったです。	
女性	楽しく勉強できました。	
女性	ヘルパー2級もっていますが、さらに上を目指したいです。	
女性	クイズに参加	
女性	老人以外の発達障害等の情報も多くあればいい	
女性	仕事がんばります。介護士増えますように。	
女性	実務経験の中で何ができれば(項目を特定して)早く士になれるようにするとか、もっと簡単に明確にして	

40代	男性	きたいしています！
	男性	最新の機材、興味深かったです。
	女性	会場のBGMが明るい感じで良かった。便利グッズ購入も良かった。
	女性	介護の人材が増えてほしい。
	女性	介護食についても知りたいと思いました。
	女性	仕事に見合ったお給料を。
	女性	息子の進路の一つとして考えてみようと思った。
	女性	勉強になりました
50代	女性	学生時代お世話になった先生(恩師)にあえ嬉しかったです。
	女性	介護の種類がいろいろあることを知り、勉強になりました。
	男性	若い人がどんどん増えてほしい、いずれお世話になります。
	男性	若い人にもっと頑張ってもらいたい。
	男性	自分の老後を考える
	男性	とても勉強になりました
	女性	最新の車イスを体験できて良かった！
	男性	イオンタウン様の口で開催している事を知らなかった為、新聞等で宣伝したらいいかながです
60代	男性	超高齢化社会に向けてどうなるのか？
	男性	自分もいずれは世話になるので知っておきたいと思いました
	男性	毎年つけて下さい。おつかれさまです。
	男性	スタッフのシャツの色が明るく、スタッフの対応に好感持てました。
	男性	若い人増えてほしいな！
	女性	とても楽しく介護について知る事ができました。
	女性	介護福祉士のプロとしての仕事を理解できました。
	女性	来て良かった。次回も来てみたいと思う。
70代	女性	AEDの使い方をちゃんとおしえてほしい
	女性	今後も介護について勉強を頑張ります。
	男性	これから世話になります。
	女性	高齢人口が増えて、とても大切なお仕事だと思う。
	女性	知識がなかったけど興味づけられた
	女性	今後もこんな企画を増やしてほしいと思いました
	女性	クイズに参加
	女性	2人、介護している。忙しい
80代以上	女性	楽しく、勉強になりました。
	女性	介護食がおもったよりおいしかった
	女性	プリンがおいしかったです。
	女性	頑張ってください
	女性	いずれお世話になります。よろしく願います。

3) 分析

今回実施した3会場の来場者層は、前回開催時と同様に、いずれも、友人同士や親子連れ、夫婦等でのショッピング客が多数を占めており、すべての年代において回答を得ることができた。また、大学が所在する弘前市からの来場が最も多かったことから、養成施設としての認知度が高いことがうかがえた。各介護関連施設をはじめ、金融機関や道の駅などに依頼し掲示してもらったイベントポスターの効果も一助になったものと捉える。

また、前回課題となった中学生・高校生へのアプローチについても、各学校への説明やチラシ配布など告知を早期から実施したことなどにより、ある一定の来場者を得ることができた。他方、アンケート自由記述に見られるように、10代からの意見・感想が前回比3.5倍と多くの方からのリアクションがあり、福祉〇×クイズ大会、パネル展示などの実施が進路選択やイメージ醸成に良い影響を及ぼしていることがうかがえた。今後も若年層への周知を進めるとともに、小学校・中学校への出前講座の実施や、若年層にも分かりやすく親しみやすい介護に関するマンガ本などツール作成の試みも考案・企画し、早い時期から進路に対するルート開拓に役立てられるよう取り組む必要が示唆された。

6. まとめ

今回の「介護フェスタ」における福祉・介護に関しての普及・啓発活動を通して、養成施設のもつノウハウを生かした地域とのかかわりを大切にしていくことの重要性を改めて感じ取ることができた。地域住民の中には、介護分野への希望・期待やさらなる発展を希求する声も少なくない。また、例えば、若年層が進学に向けた進路選択に際して得たいこと、すでに介護の仕事に従事している中堅層が抱える課題の解決に向けた取組に際して得たいこと、仕事を引退した後の老後に備えて、あるいは親の介護を抱える時期にあつての課題の解決に向けた手続きや介護・介助技術などの学習に際して得たいこと、など、各年齢層や時期により介護に関する“知りたい情報”は異なるが、いずれの課題についても、本学のような養成施設もまた、ワンストップ・サービス型のアプローチができる機関のひとつとして機能できるよう、教育資源をフルに活用して、地域福祉の向上と福祉・介護人材確保にむけて寄与していく必要性を見出すことができた。

最後に、補助金の事務に際しご指導いただいた青森県健康福祉部健康福祉政策課、会場をお貸しくださった各商業施設の受入担当者、介護福祉機器・用品及びパネル

展示、リーフレット作成等に際しお世話になった関係業者、ご来場くださった多くの市民の皆さまに心から感謝申し上げる次第である。

• 役割分担（敬称略）

1) トークセッション出演者（本学卒業生）

	11/4(日) エルム	11/11(日) ロックタウン	11/17(土) マエダガーラ
1人目	福士 雄大	安達 央帆	安達 央帆
2人目	田澤 志穂	五十嵐晴香	工藤 千穂
3人目	小畑みなみ	-	山田梨恵子

2) 教職員・学生スタッフ（学生広報グループ）

	11/4(日) エルム	11/10(土) ロックタウン	11/11(日) ロックタウン	11/17(土) マエダガーラ	11/18(日) マエダガーラ
企画担当	中村 直樹				
事務担当	佐藤 吉彦				
教職員 スタッフ	戸来 陸雄 工藤 雄行 福士 尚葵 柴田 拓弥	戸来 陸雄 相馬 陽子	山口かおる 平岡 恭一 戸来 陸雄 工藤 雄行 相馬 陽子 福士 尚葵	平岡 恭一 戸来 陸雄	戸来 陸雄 中村 聡 工藤 雄行 相馬 陽子
学生 スタッフ	乳井姫頼莉 古川 遥香 高井 佑馬 五十嵐侑真 工藤 浩輔 山谷 瑠奈 田原 羽蘭 高阪恵理奈 工藤 香奈	佐藤 真優 神 亜未紗 齊藤 瑞姫 藤原 麗奈 田安 賢哉	守田 彩乃 遠藤 柚香 高橋 美帆 諏訪満璃奈	工藤 浩輔 佐藤 真優 神 亜未紗 田安 賢哉	高阪恵理奈 清水 美瑠 三上 紗彩 工藤 香奈

引用文献

- 1) 青森県高齢福祉保険課・介護人材支援グループ：福祉・介護人材確保対策事業（2019. 1. 30参照）
<http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/care/hukushijinzei.html>
- 2) 平成26年度介護労働実態調査結果について（2019. 1. 30参照）
http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/h26_chousa_kekka.pdf
- 3) 平成28年度介護労働実態調査資料（青森県版）（2019. 1. 30参照）
<http://www.kaigo-center.or.jp/shibu/aomori/b37a16665a43c8875ac235fb4662d8d26d61cee6.pdf>

参考文献

- 1) 厚生労働省（2017）：平成29年版厚生労働白書
- 2) 青森県（2016）：青森県福祉・介護人材確保定着ブランドデザイン（解説編）
- 3) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会：近い未来の介護福祉士（2019. 1. 30参照）
<http://kaiyokyo.net/future/index.html>